

環境を汚さず、安全な作物を作るための農作業の新たな基準が注目を集めている。名前は「農業生産工程管理（GAP）（Good Agricultural Practice）」。農林水産省が最近、そのガイドラインを作った。販売競争に勝ち残るため既存の農協も企業化した農業者も導入を考え始めてい

る。

農水省、「適切な農作業」で指針

の農協は4月から、GAPの導入に向けて動き始めた。使う基準は独自に作った。欧洲などで使われているGAPと比べると内容は簡素だが、将来的にはより充実させるこ

とを目指している。

多くの農家は今も卸業者や市場の求めで、農業

作つた。この基準を導入した農場は10万近くに達

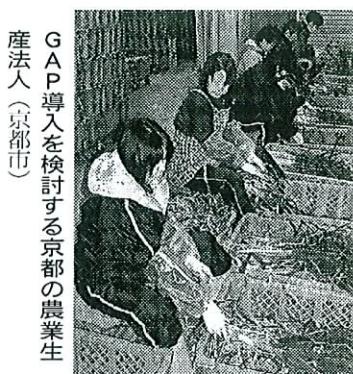
する。乱立気味だった日本

のGAPの内容を国際水準に近づけることを目標にしている。動きは急速に世界に波及。チリやタイ、ベトナム、ニュージーランドなどが欧洲に倣い、次々に独自基準を作つた。中国も農産物貿易に有利になると考

え、国を挙げて推進する。日本では日本GAP協会が欧洲の基準なども参考に詳細な点検リストを

している。動きは急速に世界に波及。チリやタイ、ベトナム、ニュージーランドなどが欧洲に倣い、次々に独自基準を作つた。中国も農産物貿易に有利になると考

信頼確保競争力高める



GAP導入を検討する京都の農業生産法人（京都市）

録し、報告している。これに対し、GAPで点検が必要になる項目は土壌

作つた。S-パー・や自治体、農協も基準を設けてい

る。ただ内容はばらばらで、第三者機関の認証なしに「導入した」と宣言してい

た。主党は昨年の衆院選の政策集で「GAPへの対応を義務化する」と掲げた。だが「GAPは規制ではない」というのが今の農水省の立場で、義務化は検討課題になつていい。

欧州には農薬の管理や土壤の保全、景観の維持などの面で基準を満たすよう農場に求め、違反した場合は補助金を減らす制度がある。これに対し、日本でコメを対象に各地で説明会を開いてい

る。乱立気味だった日本

のGAPの内容を国際水準に近づけることを目標にしている。動きは急速に世界に波及。チリやタイ、ベトナム、ニュージーランドなどが欧洲に倣い、次々に独自基準を作つた。中国も農産物貿易に有利になると考

え、国を挙げて推進する。日本では日本GAP協会が欧洲の基準なども参考に詳細な点検リストを

ただ現状で政府の役割はここまで。民

業者には、GAPをとつているから国産より安心

として営業しているところもある。現場ではこんなうわさも流れている。国際競争にさらされる現場の危機感は強い。

今後は乱立する日本のGAPのうちどれが信頼できるかで差がつき、どれだけ高度な基準を守れるかで農家の選別も進むとみられる。

（編集委員 吉田忠則）